

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、298社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成22年7月～9月の実績、平成22年10月～12月の見込み、平成23年1月～3月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成22年9月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	142	71.4%
非 製 造 業	223	156	70.0%
計	422	298	70.6%

日銀が11月18日に公表した、北陸の金融経済月報（2010年11月）によると、「北陸の景気は、持ち直しの動きが弱まりつつある。」としている。

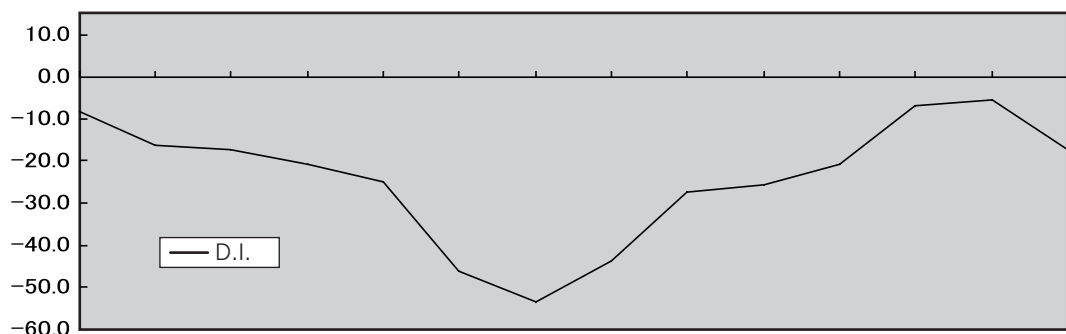
「最終需要をみると、輸出は、為替円高や海外での一部製品の在庫調整の影響から増加ペースが鈍化している。設備投資、住宅投資は下げ止まっており、個人消費も一部政策効果の減少がみられるものの、全体としては下げ止まりつつある。公共投資は減少している。

先行きは、一部政策効果の減少や輸出鈍化の影響から、持ち直しの動きが鈍化するとみられるが、その後は中国等アジアを中心とした海外需要増を背景に、緩やかな回復経路に復していくとみられる。もっとも、海外経済の不確実性や為替相場変動の影響について注意が必要であることから、慎重にみていく必要がある。」としている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別	（%）														見込	予測
	19年				20年				21年				22年		23年	
種別	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
良 い	14.6	12.6	12.9	8.4	9.4	4.4	3.4	3.6	7.9	11.0	11.1	16.2	13.5	7.8		
普 通	62.3	58.4	56.6	62.2	56.3	44.7	39.8	49.0	56.4	52.0	56.8	60.5	67.6	66.9		
悪 い	23.1	29.0	30.5	29.4	34.4	50.9	56.8	47.4	35.6	37.0	32.1	23.3	18.9	25.3		
D . I .	-8.5	-16.4	-17.6	-21.0	-25.0	-46.5	-53.4	-43.9	-27.7	-26.0	-21.0	-7.1	-5.4	-17.6		

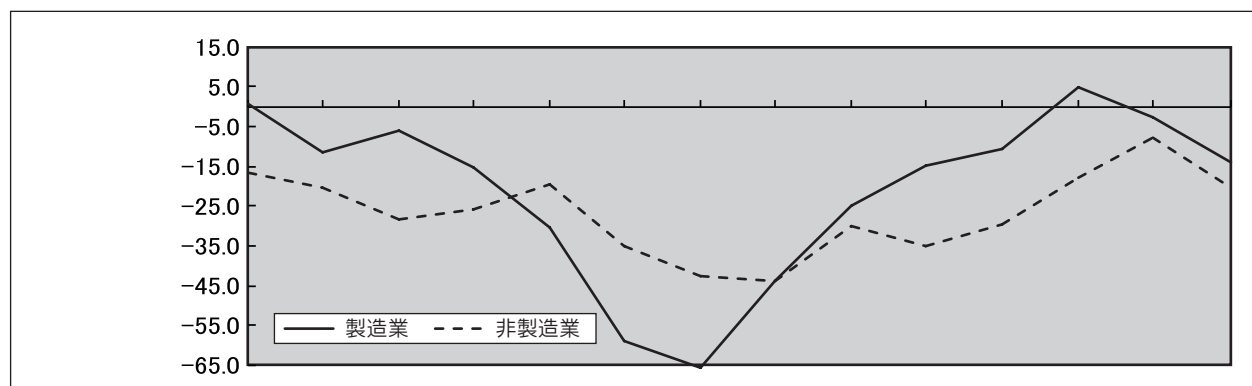


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)														見込	予測
期別 種別	19年	20年				21年				22年				23年			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
良	19.9	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	5.7	10.0	20.5	17.7	24.3	16.4	10.0			
普	60.8	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	44.7	55.0	43.8	53.7	56.4	64.3	65.7			
悪	19.4	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	49.6	35.0	35.6	28.6	19.3	19.3	24.3			
D.I.	0.5	-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-44.0	-25.0	-15.1	-10.9	5.0	-2.9	-14.3			

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)														見込	予測
期別 種別	19年	20年				21年				22年				23年			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
良	9.8	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	1.8	6.1	2.9	5.4	9.0	10.9	5.8			
普	63.7	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	52.7	57.7	59.0	59.5	64.1	70.5	67.9			
悪	26.5	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	45.6	36.2	38.2	35.1	26.9	18.6	26.3			
D.I.	-16.7	-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.8	-30.1	-35.3	-29.8	-17.9	-7.7	-20.5			



- こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の22年7～9月期実績は▲7.1と前期比13.9ポイント改善した。先行きについて、22年10～12月期のD.I.は▲5.4となり、年末に向けては改善していく予想であるが、23年1～3月期予想は▲17.6と年初は悪化予想となっている。
- 業況判断指数D.I.の22年4～6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より15.9ポイント改善し、+5.0となった。先行きについては、再び悪化予想となっている非製造業では、前期比11.9ポイント改善し、▲17.9となった。非製造業も改善してきており、先行きの22年10～12月期は改善する予想となっている。しかし、23年1～3月期は▲20.5と悪化予想となっている。

II. 売上高状況

売上高状況

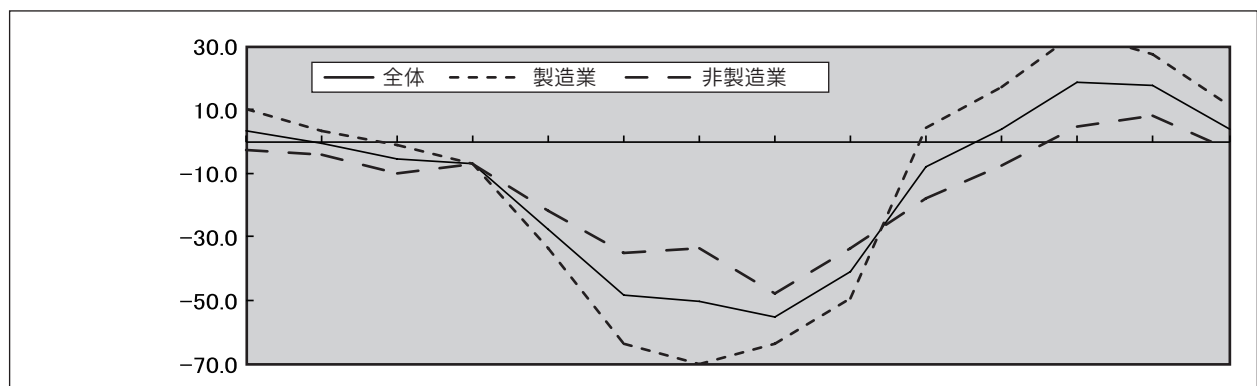
		(%)														見込	予測	
種別	期別	19年				20年				21年				22年				23年
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
増加		31.5	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	10.0	14.5	28.0	34.5	43.3	35.9	23.9			
横ばい		40.4	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	24.9	29.9	36.2	34.8	30.2	45.6	56.4			
減少		28.2	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	65.0	55.6	35.8	30.7	25.5	18.4	19.8			
D.I.		3.3	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-55.0	-41.1	-7.9	3.8	18.8	17.4	4.0			

売上高状況（うち製造業のみ）

		(%)														見込	予測	
種別	期別	19年				20年				21年				22年				23年
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
増加		36.5	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	7.8	13.4	35.6	43.9	54.2	41.6	27.4			
横ばい		37.1	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	20.6	23.9	32.9	29.1	26.1	44.4	56.3			
減少		26.3	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	71.6	62.7	31.5	27.0	19.7	14.1	16.2			
D.I.		10.2	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-63.8	-49.3	4.1	16.9	34.5	27.5	11.3			

売上高状況（うち非製造業のみ）

		(%)														見込	予測	
種別	期別	19年				20年				21年				22年				23年
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
増加		26.9	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	11.9	15.4	21.5	26.2	35.3	30.8	20.5			
横ばい		43.3	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	28.6	35.2	39.0	39.9	34.0	46.8	56.4			
減少		29.8	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	59.5	49.4	39.5	33.9	30.8	22.4	23.0			
D.I.		-2.9	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-47.6	-34.0	-18.0	-7.7	4.5	8.3	-2.6			



- 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、D.I.は18.8となり、前期より15.0ポイント改善となった。先行きについては、22年10~12月期のD.I.は17.4とやや横ばい、23年1~3月は4.0と悪化予想となっている。
- 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、製造業、非製造業とも前期比改善となった。製造業は17.6ポイント、非製造業は12.2ポイント改善した。非製造業については、指数がプラスポイントとなり増加の回答が減少を上回った。先行きについては、23年1~3月期は悪化予想となっている。

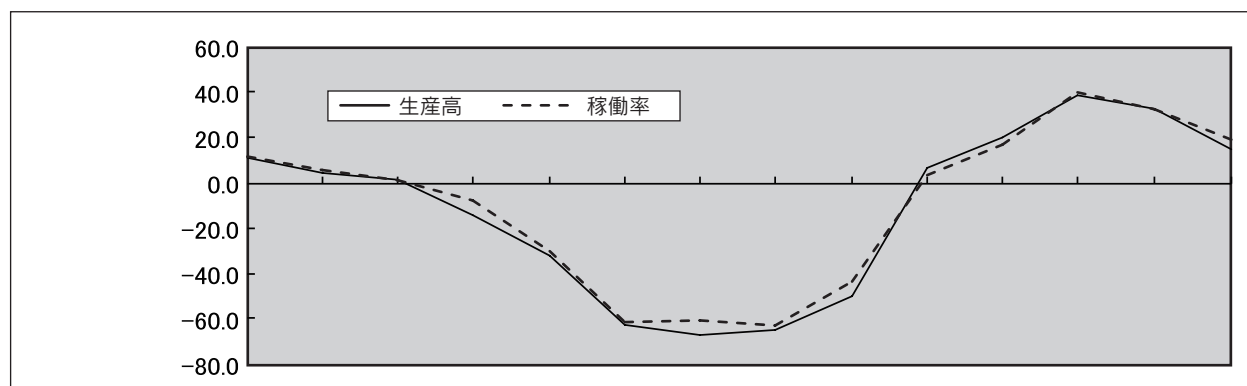
Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

期別 種別	（%）														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
20%以上増加	7.9	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.0	2.2	12.9	19.4	19.9	9.2	6.4		
20%未満増加	27.5	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	7.1	9.5	24.3	26.6	35.5	34.8	24.1		
横ばい状況	39.9	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	20.6	26.3	32.1	28.1	28.4	44.7	53.9		
20%未満減少	21.3	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	36.2	38.0	22.1	18.7	15.6	9.2	12.8		
20%以上減少	3.4	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	36.2	24.1	8.6	7.2	0.7	2.1	2.8		
D . I .	10.7	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-65.2	-50.4	6.4	20.1	39.0	32.6	14.9		

稼働率（製造業のみ）

期別 種別	（%）														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
上昇	6.9	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	2.9	13.6	21.4	22.3	15.8	11.5		
やや上昇	25.3	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	8.1	10.2	22.9	22.1	31.7	27.3	22.3		
横ばい	47.1	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	21.3	29.9	30.7	30.0	32.4	46.0	51.1		
やや下降	17.8	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	33.1	38.0	22.9	18.6	11.5	10.1	12.9		
下降	2.9	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	37.5	19.0	10.0	7.9	2.2	0.7	2.2		
D . I .	11.5	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-62.5	-43.8	3.6	17.1	40.3	32.4	18.7		

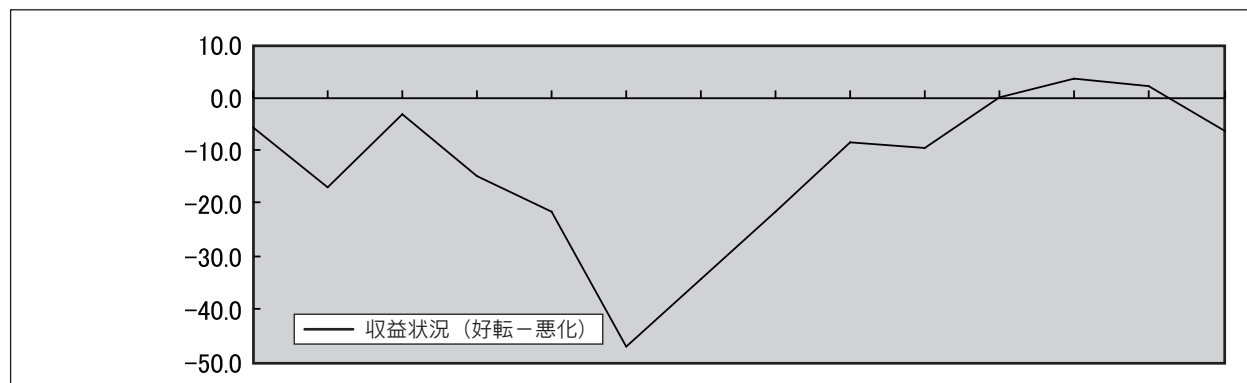


- 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.Iは39.0となり、前期比18.9ポイント改善となった。先行きについては、23年1~3月期は14.9となり悪化予想となっている。売上高状況と同じ予想となっている。
- 稼働率状況D.Iは、前期比23.2ポイント改善し、40.3となった。先行きについても、生産高同様に悪化見込となっており、10~12月期は32.4となり、23年1~3月期は18.7と予想している。稼働率も売上高同様の变化をしており、先行きは不安な回答となった。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

種別	（%）														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
好転	18.5	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	13.5	17.1	19.0	21.1	20.9	17.8	10.1		
横ばい	57.5	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.4	57.2	52.3	57.7	61.8	66.3	73.4		
悪化	24.1	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	35.0	25.7	28.7	21.1	17.2	15.8	16.5		
D.I.	-5.6	-16.9	-3.3	-15.0	-21.7	-46.9	-34.3	-21.5	-8.6	-9.7	0.0	3.7	2.0	-6.4		



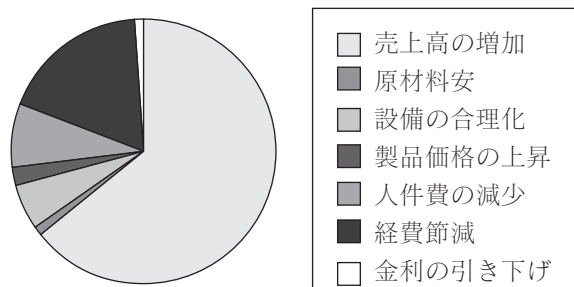
好転理由

種別	（%）														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
売上高の増加	64.4	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	63.9	54.2	63.3	62.5	64.4	69.9	55.3		
原材料安	2.3	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	8.2	11.1	5.1	4.5	1.1	2.7	8.5		
設備の合理化	2.3	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	1.6	2.8	3.8	2.3	5.6	4.1	4.3		
製品価格の上昇	6.9	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.5	5.7	2.2	1.4	2.1		
人件費の減少	6.9	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	11.5	12.5	10.1	9.1	7.8	6.8	14.9		
経費節減	16.1	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	14.8	19.4	15.2	15.9	17.8	13.7	14.9		
金利の引き下げ	1.1	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.4	0.0		

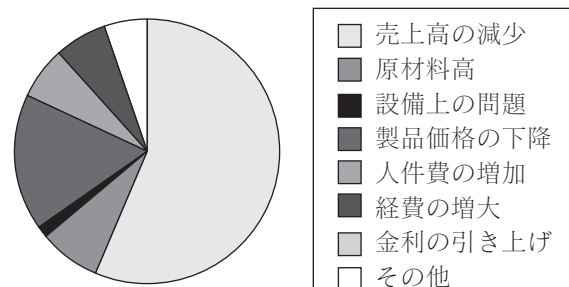
悪化理由

種別	（%）														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
売上高の減少	48.0	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	62.7	68.1	65.2	56.1	56.4	57.1	60.3		
原材料高	26.3	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	3.6	4.2	5.0	13.2	7.7	14.3	14.1		
設備上の問題	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.2	1.7	1.4	0.9	1.3	0.0	0.0		
製品価格の下降	5.3	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	16.6	14.3	13.5	14.9	16.7	20.8	17.9		
経費の増大	11.8	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	7.7	5.0	5.0	5.3	6.4	5.2	5.1		
人件費の増加	5.3	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	4.1	3.4	2.8	7.0	6.4	2.6	1.3		
金利の引き上げ	0.0	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
その他	2.0	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	3.6	3.4	7.1	2.6	5.1	0.0	1.3		

好転理由



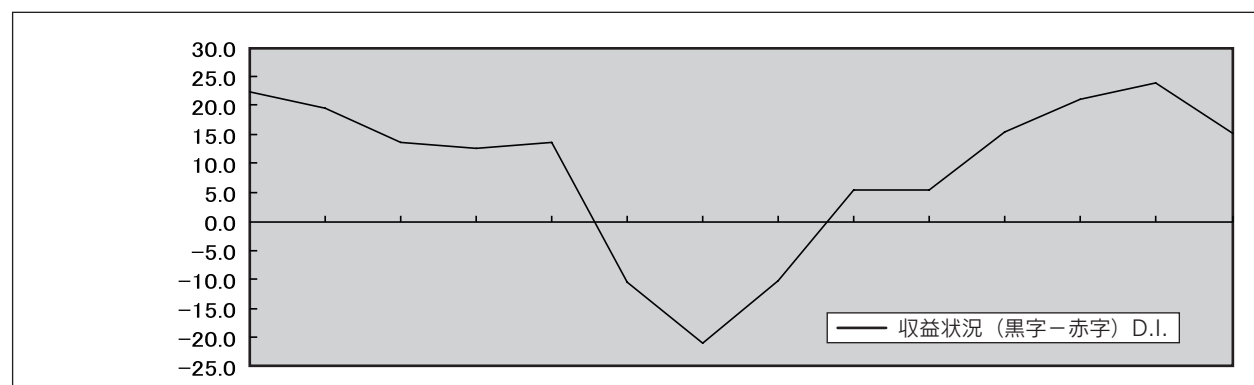
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、3.7と前期比3.7ポイント改善となり、プラスポイントとなった。18年10～12月期以来約4年ぶりに好転との回答が悪化を上回った。先行きは、悪化見込となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」とするポイントが全体の64.4%となり次が経費節減の17.8%となった。売上の増加、経費削減により収益は改善されてきている。また、設備の合理化を理由とするポイントも増加した。先行きについても、好転には売上高の増加を理由とするポイントが最も高い。
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」とするポイントが最も高く、次に「製品価格の下降」となっている。「原材料高」を理由とするポイントは低くなっている。「売上高の減少」を理由とするポイントは前期比横ばいであるが、先行きについては増加予想となっている。「原材料高」とするポイントも増加予想となっている。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別														見込		予測
	19年				20年				21年				22年				23年
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			
黒字	41.9	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	23.5	27.0	28.5	36.0	41.7	36.5	31.4			
収支トントン	38.6	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	42.6	51.3	48.3	43.3	37.6	51.0	52.4			
償却後赤字	19.5	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	33.9	21.7	23.2	20.7	20.7	12.5	16.2			
D . I .	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	5.3	15.3	21.0	24.0	15.2			



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、前期比5.7ポイント改善し、21.0となった。今回は、収支トントンとの回答より、黒字との回答ポイントが高くなっている。先行きについては、10～12月期は改善予想であるが、23年1～3月は悪化予想となっている。先行きは、悪化予想であるが、収支トントンとの回答が50%以上となっている。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

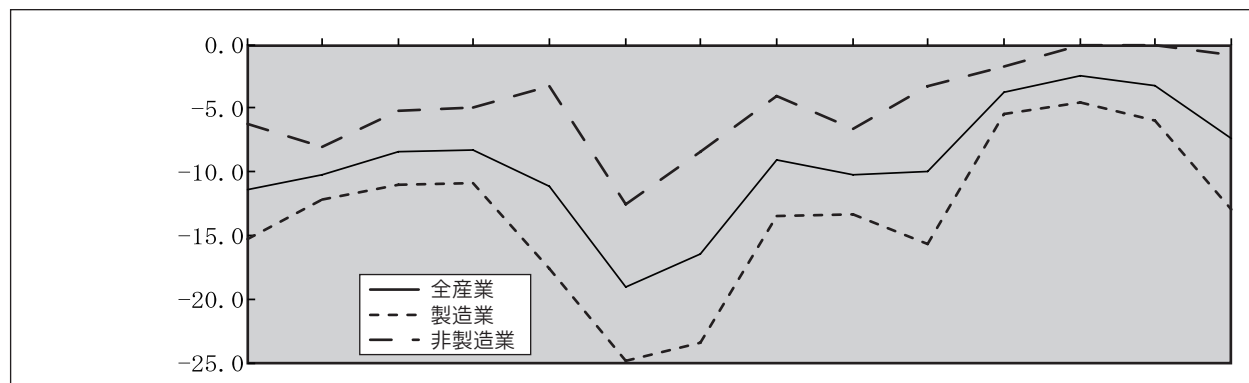
期別 種別	製品在庫水準 (%)														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	1.6	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	3.5	3.1	1.1	4.5	4.9	3.3	2.9		
適正	85.5	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	84.0	83.5	87.7	87.2	87.8	90.2	86.9		
過剰	12.9	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	12.5	13.3	11.1	8.3	7.3	6.5	10.2		
D . I .	-11.3	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-9.0	-10.2	-10.0	-3.8	-2.4	-3.3	-7.3		

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

期別 種別	製品在庫水準 (%)														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	1.1	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	4.5	3.7	0.0	5.5	5.2	3.7	2.2		
適正	82.4	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	77.4	79.3	84.3	83.4	85.1	86.6	82.8		
過剰	16.5	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	18.0	17.0	15.7	11.0	9.7	9.7	14.9		
D . I .	-15.3	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-13.5	-13.3	-15.7	-5.5	-4.5	-6.0	-12.9		

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

期別 種別	製品在庫水準 (%)														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	2.1	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	3.3	4.5	2.7	3.6		
適正	89.4	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	91.1	88.3	91.7	91.7	91.0	94.6	91.9		
過剰	8.5	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	6.5	9.2	5.8	5.0	4.5	2.7	4.5		
D . I .	-6.3	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	-4.1	-6.7	-3.3	-1.7	0.0	0.0	-0.9		



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足-過剰」D.I.は、22年7~9月期は▲2.4となり、前期比1.4ポイントの改善となっている。先行きについては、ポイントはマイナスであり、過剰感は低下する増加予想となっている。
- (2) 業種別では、製造業の過剰とのポイントが高く、先行きについても悪化予想となっている。非製造業のD.I.は0.0となっている。適正との回答も90%以上となっている。先行きについては、23年1~3月期は悪化予想となっている。

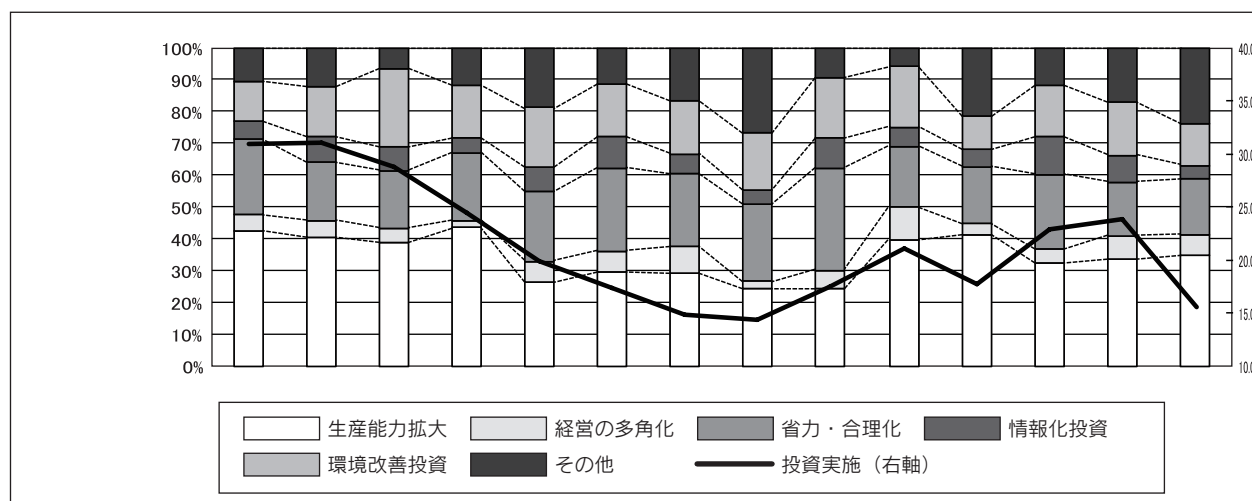
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%) 見込 予測													
	19年	20年				21年				22年				23年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月
投資実施	30.9	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	14.4	17.4	21.0	17.7	22.8	23.8	15.5
投資せず	69.1	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	85.6	82.6	79.0	82.3	77.2	76.2	84.5

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	42.6	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	24.4	24.5	39.7	41.1	32.4	33.8	34.8
経営の多角化	4.9	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	2.2	5.7	10.3	3.6	4.4	7.0	6.5
省力・合理化	23.8	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	24.4	32.1	19.1	17.9	23.5	16.9	17.4
情報化投資	5.7	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	4.4	9.4	5.9	5.4	11.8	8.5	4.3
環境改善投資	12.3	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	17.8	18.9	19.1	10.7	16.2	16.9	13.0
その他	10.7	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	26.7	9.4	5.9	21.4	11.8	16.9	23.9



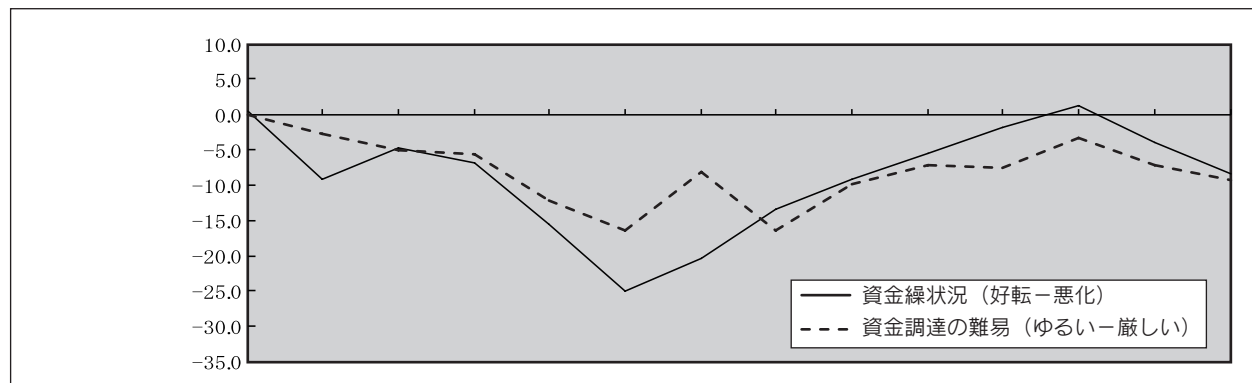
- (1) 22年7~9月に設備投資を実施した企業は全産業の22.8%と、前期比5.1ポイント増加した。投資実施企業は前期は減少したが、再び増加となった。先行きについては、10~12月期は増加予想であるが、23年1~3月期は減少予想となった。目的別では、生産能力の拡大が最も高く、次に省力合理化、環境改善投資と前期と同じ項目となっている。今期は情報化投資のポイントが増加した。
- (2) 業種別では、ポイントが高い順に「出版印刷紙加工」、「電子部品製造」が50%以上次に「医薬品製造」、「繊維」となっている。目的別では、生産販売能力拡大とするポイントが最も高いが、出版印刷紙加工では省力・合理化を目的とするポイントが高く、電子部品製造では情報化投資も高いポイントとなっている。また、不動産業では環境改善を目的とするポイントが高い。先行きについては、10月~12月期は23.8%が設備投資予想となっている。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況 (好転－悪化)

(%) 見込 予測

期別 種別	19年	20年				21年				22年				23年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月
好転	10.4	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	7.7	5.9	9.0	10.1	9.8	7.7	2.7
変わらず	79.6	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	71.0	79.1	76.3	77.9	81.8	80.5	86.2
悪化	9.9	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	21.3	15.0	14.6	12.0	8.4	11.8	11.1
D . I .	0.5	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-13.5	-9.2	-5.6	-1.9	1.3	-4.0	-8.4



資金調達の難易 (ゆるい－厳しい)

(%) 見込 予測

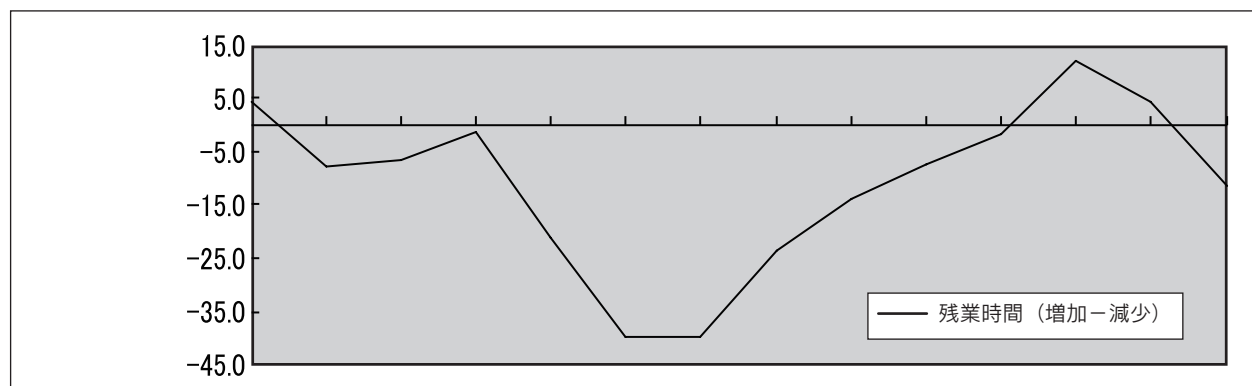
期別 種別	19年	20年				21年				22年				23年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月
ゆるい	10.4	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.1	7.3	9.7	10.2	9.6	8.9	8.6
厳しくない	79.3	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	73.3	75.4	73.3	72.1	77.3	74.9	73.5
厳しい	10.4	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	21.5	17.3	17.0	17.8	13.1	16.2	17.9
D . I .	0.0	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-16.4	-10.0	-7.2	-7.6	-3.4	-7.2	-9.3

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、前期比3.2ポイント改善され+1.3となった。プラスポイントは19年10～12月期以来である。しかし、先行きでは、10～12月期▲4.0、23年1～3月期▲8.4と再び悪化予想となっている。
- 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」では、▲3.4と前期比4.2ポイント改善となった。先行きについては悪化の予想となっている。製造業、非製造業別では製造業はゆるいとのポイントが高いが、非製造業は厳しいとのポイントが高い回答となった。業種別では、繊維は▲54.5と厳しいとのポイントが高く、次に不動産業の▲40.0となった。ゆるいとのポイントが高い業種は、機械工具販売+50.0、自動車販売+33.3、高岡銅器+33.3であった。

VIII. 労務事情

残業時間

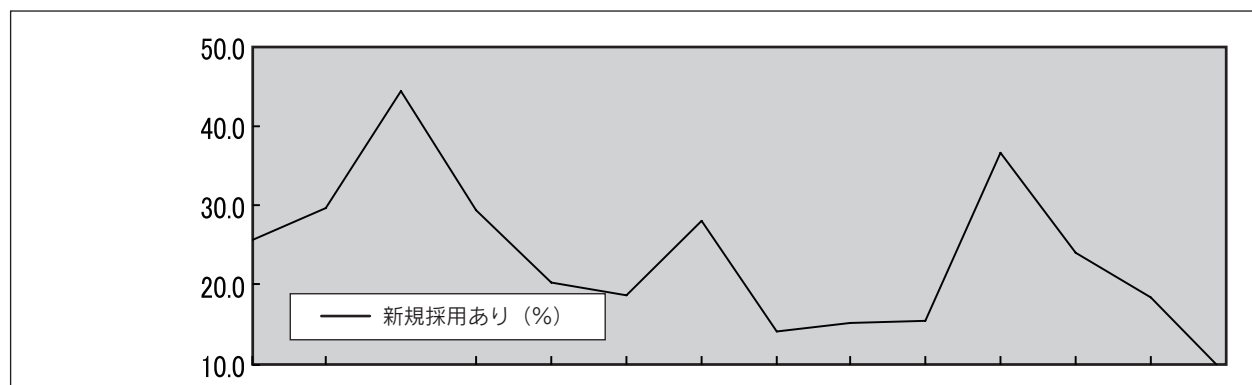
期別 種別	(%)														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
増加	18.7	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	11.3	12.1	15.4	19.0	22.4	13.8	4.5		
横ばい	67.0	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	53.6	61.6	61.4	60.0	67.2	76.5	79.5		
減少	14.4	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	35.1	26.3	23.2	21.0	10.3	9.7	16.0		
D.I.	4.3	-8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-23.7	-14.2	-7.8	-2.1	12.1	4.2	-11.5		



- (1) 残業時間D.Iは22年7~9月期+12.1となり、前期比14.2ポイント悪化した。残業時間は増加してきており、今期は増加ポイントが高くなり、プラスポイントとなった。先行きについては、23年1~3月期は▲11.5と減少予想となっている。業種別ではほとんどが増加の回答となった。減少の回答は宿泊業、出版印刷紙加工、木工建具、百貨店スーパー小売業であった。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

期別 種別	(%)														見込	予測
	19年	20年				21年				22年				23年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
全産業	25.6	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.0	15.2	15.3	36.5	24.1	18.3	8.6		
(うち製造業)	27.7	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	10.0	12.9	15.6	34.5	31.9	19.9	7.9		
(うち非製造業)	23.7	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	17.4	17.2	15.1	38.3	17.0	16.9	9.2		

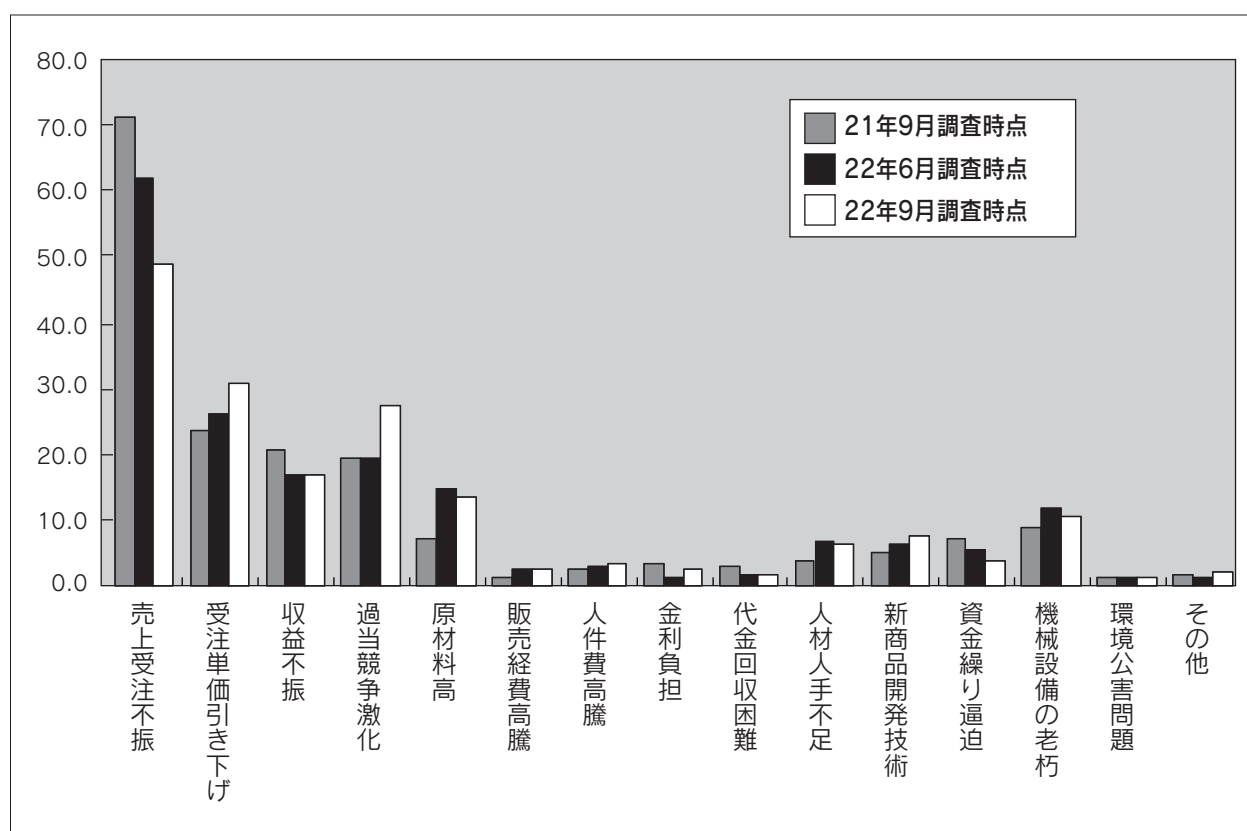


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業の24.1%が新規採用を行っている。製造業では31.9%が採用を行っており、前年同期比21.9ポイント増加している。非製造業は横ばいであった。

IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	21年9月 (前年)	22年6月 (前回)	22年9月 (今回)	前回比増減		
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	70.8	61.8	48.7	(47.2)	(50.0)	-13.1
受注単価引き下げ	23.1	25.6	30.2	(38.0)	(23.1)	4.6
収益不振	20.2	16.4	16.4	(14.1)	(18.6)	0.0
過当競争激化	18.9	19.2	27.2	(19.0)	(34.6)	8.0
原材料高	6.7	14.2	13.1	(17.6)	(9.0)	-1.1
販売経費高騰	1.0	2.2	2.0	(3.5)	(0.6)	-0.2
人件費高騰	2.2	2.5	3.0	(1.4)	(4.5)	0.5
金利負担	2.9	0.9	2.3	(3.5)	(1.3)	1.4
代金回収困難	2.6	1.3	1.3	(0.7)	(1.9)	0.0
人材人手不足	3.2	6.3	6.0	(5.6)	(6.4)	-0.3
新商品開発技術	4.5	6.0	7.0	(12.7)	(1.9)	1.0
資金繰り逼迫	6.7	5.0	3.4	(2.8)	(3.8)	-1.6
機械設備の老朽	8.3	11.4	10.1	(10.6)	(9.6)	-1.3
環境公害問題	1.0	0.9	1.0	(1.4)	(0.6)	0.1
その他	1.3	0.9	1.7	(0.7)	(2.6)	0.8



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振48.7%(前期▲13.1ポイント)、②受注単価引下げ30.2%(前期比+4.6ポイント)③過当競争激化27.2%(前期比+8.0ポイント)の順になっている。
- (2) 今回調査では、問題点としての順位は変わらなかったが、売上受注不振とするポイントは減少し、過当競争激化、受注単価引下げとするポイントが増加した。
- (3) 業種別では、金属製品製造、出版印刷紙加工が受注単価引下げを高いポイントとし、鋼材建材販売、機械工具販売、自動車販売は過当競争激化が高いポイントとなった。木材業、高岡銅器は原材料高が高いポイントとなった。